

小学校国語科における図表等の資料を含む 論理的文章（読むこと）の実践報告

A report on the practice of logical writing (reading) including charts and other materials in elementary school Japanese language classes

瀧 沢 葉 子 ・ 長谷川 祥 子
(Yoko TAKIZAWA Sachiko HASEGAWA)

1 小学校国語科における論理的文章「読むこと」の課題

小学校の論理的文章には、多くの図表等が挿入されている。それらは、単にイメージを想起させる挿絵のようなものから、論証の根拠となる具体的事実の役割を果たすものなど様々である。

平成29年度告示小学校学習指導要領解説国語編において、第5学年及び第6学年「C読むこと」に「ウ目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること。」が示されている。文章と図表等とを関連させて読む学習が必要である。ところが、小学国語授業では、教材文の内容理解に重点が置かれ、文章と資料を関連付けて読む学習が不十分だったり、図表等のある文章を書く学習にうまくつながっていなかったりする実践が散見される。

また、令和6年度全国学力学習状況調査結果において、中学校国語の「文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈すること」が課題であることが明らかになった。指導改善のポイントとして、「図表や写真などを含む説明的な文章を読む際には、示されている図表などが、文章のどの部分と関連しているのかを確認するなどして、書き手の伝えたい内容をより正確に読み取ることが重要である。」と指摘している。

これらのことから、国語科における図表等の資料を含む論理的文章を読む授業改善が必要だと考えている。

2 研究の目的

近年の論理的文章は、文章だけのものは少なく、写真や図や表などの資料とともに、視覚的にも理解できるよう工夫がなされている。したがって、論理的文章の基本的な学習事項「音読、段落、キーワード、文章構成」に加えて、「図表等の資料の読み方」を学習する必要がある。そこで、本研究では、小学校段階における論理的文章における「図表等の資料の読み方の基本的な学習」を探っていく。

3 研究の方法

研究の方法としては、次の3点を設定している。

- (1) 図表等を含む論理的文章の指導に関する先行研究を確認する。
- (2) 小学校第5学年教材「固有種が教えてくれること」(光村図書)を用いた授業実践を報告する。
- (3) 図表等を含む論理的文章の読み方を提案する。

4 図表等を含む論理的文章に関する先行研究

論理的文章の中の図表等の指導に関する先行研究を、以下に述べる。

市毛勝雄(1997)は、事実について説明したり、事実と事実との関係を述べたりする説明文における図・写真・統計の役割について、「スケッチ・模型図・見取り図・写真・ビデオ・映画などの他に、統計表・種々のグラフなどの資料(中略)は文章の一部に代わる役割を担っているから、その資料の占めるスペースが文字表現より効果的だと認められる場合に限って使うようにする。」⁽¹⁾として、図表等は文章の一部に代わる役割を担っていることを指摘している。さらに、「文章やグラフは、そのままでは構成を知らせることはできない。その文章を「気温」「雨量」「暑さ」という三つの単語に集約した時に、初めて文章構成と帰納論理とについて考えることができるようになる。」として、学習の重点は「豊富な具体的事例と的確な考察」であり、図表等の表す具体的事実を名付ける学習の必要性を指摘している。文章構成の観点から図表等の役割を明らかにし、「名付ける」という具体的な学習課題を示していることは示唆に富む。

田中潔(1994)は、図や表の使用について、「表には内容を示す題を必ず付けなければならない。(中略)図の題も必要なことは同様だ。」⁽²⁾として、図や表の内容を題として付けることが必須であると指摘している。さらに「題のほかに説明(legend)があれば、それを題の次に(多くは改行して)書く。図中の記号を説明するほか、図の意味するものを簡単に述べることもある。(中略)時には題なしの説明文のみという例を見かける。しかしいくら説明が詳しくても、図の題は省略しないがよい。」として、図にある題名の重要性を指摘している。科学論文の図や表には題名が付くのが常識であるとする、国語科の教科書教材の図表等に題名が付いていないものが少なくないのは、課題化することを見込んで故意に付けていないことが考えられる。

井上尚美(1998)は、言語と認識や思考について、幼児のテレビ画面の認識を例にして「いくつかの画面をつないで関連づけること、すなわち意味づけや解釈は十分にできないのである。そしてその意味づけや解釈はまさに言語によってなされるのである。」⁽³⁾として映像などの非言語の意味や解釈は、その映像に言語で置き換えることによって初めて認識や思考がなされるとする。また、「概念的認識は必ず言語を伴うし、また言語によって物事を理解するということは、同時に一般化・抽象化を行っていることになる。」とし、言語化によって物事の意味が一般化あるいは抽象化されて認識されることを指摘している。

佐藤洋一(2011)は、「地図・データ・写真・年表などの非言語的情報の言語化(解釈・判断・

評価)の学習を通して、論理的で説得力のある記録・報告やプレゼンテーション技術等を育成することができる。これらは、国語科のみならず社会科・理科・音楽・図画工作・家庭科など、全教科に関わる学力である。」⁽⁴⁾とし、図表等の言語化が情報を活用する学力に重要であることを指摘している。また、具体的な授業モデルの中で、グラフの基礎的な読み方の学習事項として「①タイトル ②調査年、調査団体 ③横軸の項目 ④縦軸の数値 ⑤数値の多い項目を順に読み取らせる」を挙げている。

長谷川祥子(2018)は、国語科教材を「高度な抽象的思考の産物である文字から学ぶ」⁽⁵⁾とし、「児童の音読の繰り返し(文字と音声の結びつけ)」と「言葉と具体的な事物や事例とを結びつける学習(文字と事物の結びつけ)」が重要な学習事項であることを指摘している。また、優れた「記録」の条件の一つとして、「事実・状態などを表現するのに的確な言葉が選ばれていること」を指摘し、記録の事実に対する的確な言葉を選ぶ重要性を指摘している。

以上の先行研究を踏まえると、図表等が示す具体的な事実を正確に把握し、文章の中での役割を整理するためには、図表等が表す事実に適切な言葉を結び付け、名づけることが重要であることがわかる。具体的な学習活動としては、文章と図表等を照合させたり、図表等に名前を付けたりする学習活動が考えられる。これらを踏まえて、以下に、その実践を報告する。

5 教科書改訂による教材文の比較

教材文「固有種が教えてくれること」は、小学校5学年の教科書『国語五 銀河』(光村図書)に収録されている。本教材は、令和5年に実施された教科書検定によって一部改訂されているため、以下に改訂された部分について比較し、考察する。

(1) 対象

旧：平成31年2月25日検定済『国語五 銀河』38光村国語507小学校国語科用

新：令和5年3月10日検定済『国語五 銀河』38光村国語513小学校国語科用

(2) 新旧教科書の比較

	旧	新
単元名	固有種が教えてくれること 統計資料の読み方 グラフや表を用いて書こう	固有種が教えてくれること 自然環境を守るために
単元説明	「固有種」とはどういうもので、何を教えてくれるのでしょうか。筆者の説明のしかたとその効果をとらえ、それをいかして、あなたも自分の考えを文章に書きましょう。	「固有種」とはどういうもので、何を教えてくれるのでしょうか。「固有種」に関する文章を読んだ後、あなたも自然環境についての考えを書きましょう。
文章と図の配置	資料1が②③段落の上に配置 資料2が④～⑥段落の上に配置 資料3・4が⑥⑦段落の上に配置 資料5が⑧段落に配置 資料6・7が⑪段落中縦に文章を分断して配置	資料1が③段落の上に配置 資料2が「資料2を見てください」の文章のあとに配置。⑤～⑦段落の上に配置 資料3・4が⑦⑧段落の上に配置 資料5が⑨段落に配置 資料6が⑩段落に配置 資料7が⑪段落に配置
文章の加除	④段落 (本州・四国・九州) ⑩段落 追加あり ⑪段落 追加あり	「(ここでは、本州・四国・九州をいう。)」 「資料6と資料7を見ると、天然林が千五〇〇万ヘクタールにまで現象した一九八〇年代以降、ほかくされたニホンカモシカの数が増えていることが分かります。」 「二〇二一年、アマミノクロウサギがすむ奄美大島と徳之島は、沖縄島北部や西表島とともに、世界遺産として登録され、その環境が保護されることになりました。これによって、アマミノクロウサギは守られていくでしょう。同じように、」

(3) 考察

- ① 単元名、単元説明を比較すると、旧教科書は統計資料の活用、グラフや表を用いた文章を書くという言語技能を重点としていたが、新教科書は自然環境を守るためにというテーマを重点として、テーマについて文章を読んで考えを書くという構成になっている。言語技能を重視した学習から課題解決的な学習へと変化して、「書くこと」の学力形成に懸念がある。
- ② 文章と図の配置を比較すると、旧教科書では文章と図表がずれていた部分が、新教科書では、文章と図表が相対した配置になっており、理解しやすく修正されている。
- ③ 追加された文章が3箇所ある。加筆の内容は、内容の正確性を高める修正、資料に関する考察の追加、主張を補足する具体的な事実の追加である。文章の説明で分かりにくかった部分を補う修正で、よりよいものとなっている。

6 授業実践記録

「文章と図表等を関連付けて読む」ことを目標として授業を行った。評価基準を、①図に対応する文章を取り出している。②文章の内容を図に加えている。③図にふさわしい名前を付けている。の3点とした。同じ内容で5回の実践を行い、ワークシートや基本的な発問は変えずに実施したが、

小学5年生の授業は45分間、大学生の模擬授業は25分間で行った。

（１） 授業の実施日と所要時間

- ① 2024年2月5・9日・14日：公立A小学校第5学年3学級、児童120名、各45分間
- ② 2024年6月5日：B大学2・3年生学生38名、25分間
- ③ 2024年6月30日：日本言語技術教育学会提案授業、25分間^{（6）}

（２） 学習指導の概要

- ① 教材名 『固有種が教えてくれること』（光村図書）小学5年

本教材は、形式段落が11段落で構成され、固有種を通して環境保全について述べた論説文である。図・表・写真などの資料が7つ掲載されている。また、単元構成は、論説文の後に、統計資料を使用して自分の考えを書く学習、統計資料の読み方を知る学習から成り、図表等のある論理的文章の読む力と書く力を高めることをねらいとしている。

- ② 単元の指導事項

ア 文章構成とキーワードを整理し、内容を理解して読む。

イ 文章と図表等を結びつけて読む。

ウ 図表等を使った文章の書き方を知る。

- ③ 指導計画（全6時間）

第1・2時 各段落を音読し、キーワードを取り出し、内容を理解する。

第3時 各段落の役割と文章構成を確認する。

第4時 文章と図表等を関連づけて読む。【実践記録】

第5・6時 図表等を使った文章を書く。

- ④ 第4時の発問（発）・指示（指）・説明（説）の実際

- 1（指）「固有種が教えてくれること」という文章には、たくさんの図や表、写真などが出てきます。今日は、文章と図を照らし合わせて読む学習をします。今日の学習のめあてを読みましょう。（図と文章を関連付けて読みましょう。）
- 2（指）勉強するのは教材文 ④～⑥段落を、声を揃えて読みなさい。
- 3（発）資料2「日本列島の成り立ち」という資料には、図が4つあります。図1～図4のうち、一番古い時代はどの図ですか。指で押さえましょう。（解答：図1）
- 4（発）一番、新しい時代の図はどれですか。指で押さえましょう。（解答：図4）
- 5（説）普段、社会科や理科などで見る図の流れは、これとは逆になっていることが多いので、図の流れにも、気を付けて読みましょう。
- 6（発）図と文章を関連付けて読む学習をしていきましょう。④段落のなかに「日本列島は、はるか昔、大陸と陸続きでした。」という文があります。これは、図1から図4のうち、

どの図を説明したのですか。指で指しましょう。（解答：図1）

- 7（発） 図2を説明している1文を見つけましょう。図2の説明の文は、⑤段落にあります。

図1と同じように、四角で囲みましょう。隣の人と確認してみましょう。（解答：アマミノクロウサギの…島になりました。）

- 8（指） 囲んだ文章に図2と書いておきましょう。

- 9（発） 同じように、図3、図4を説明している一文をそれぞれを見つけましょう。図3は⑤段落に、図4は⑥段落にあります。相談しながらでいいですよ。（解答：図3同じように…固有種になっています。図4北海道が…新しい時代です。）

- 10（指） 一つ一つの図を詳しく確かめる課題を考えてみましょう。図2の四角で囲んだ説明を、みんなで読みましょう。（アマミノクロウサギ…島になりました。）

- 11（発） 切り離されてできた地域の名前は何ですか。文章中でその名前を見付け、丸で囲みましょう。（解答：南西諸島）

- 12（発） 図2をみましょう。今読んだ説明で、どこが切り離されたのでしょうか。地図上に線をひきましょう。図1と見比べるといいですね。

- 13（指） 図3の四角で囲んだ説明を、みんなで読みましょう。

- 14（発） 切り離されてできた地域の名前は何ですか。名前を丸で囲みましょう。（解答：本土）

- 15（発） 図3では、どこが切り離されたのでしょうか。地図上に線をひきましょう。

- 16（指） 図4の四角で囲んだ説明を、みんなで読みましょう。

- 17（発） 切り離されてできた地域の名前は何ですか。名前を丸で囲みましょう。（解答：北海道）

- 18（発） 図4の中で、切り離されたところに、線をひきましょう。

- 19（説） 図を詳しく見ることができました。このように、文章の内容と照らし合わせて、図の変化に着目して、見るのが大切です。

- 20（発） 4つの図は、日本列島が大陸から切り離されていく様子が示されていました。これらは、固有種のどんなことを説明するために入れられた図でしょう。それがわかる一文を、⑤段落から探して、線をひきましょう。（解答：このように他のちいきと分断されることによって、固有種は生まれるのです。）

- 21（説） これらの図は、固有種の発生のしくみを説明するための図なのですね。よく読みました。

- 22（発） 次に、図に名前を付ける学習をやってみましょう。図1に「はるか昔、大陸と陸続きだった日本列島」図3に「更新世中期の固有種が生き残る本土」とつけました。では、図2と図4に名前を付けてみましょう。それぞれの図を説明した文章の言葉を使って、つけましょう。周りの人と相談しながらつくって結構です。

- 23（指） 付けた題名を周りの人と確認しましょう。（黒板に各図2名ずつ書かせる）

図1 はるか昔、大陸と陸続きだった日本列島

図2 更新世前期に大陸から切り離された南西諸島

図3 更新世中期の固有種が生き残る本土

図4 完新世に大陸から離れた北海道

24（説） 南西諸島、本土、北海道、切り離された という言葉が共通して入っていて大切だということがわかりますね。上手に図に名前が付けられました。このように図や表、写真などに名前を付けると、文章の中で図が果たす役割を要約してわかりやすく示すことができます。

25（説） 今日は、文章と図を関連付けて読む勉強をしました。これからも、図や表がある文章はたくさんありますので、どんどん読んでみましょう。

⑤ 本時に使用したワークシート

教材文の4～6段落の文章と図を1枚のワークシートにまとめた。教科書教材は文章と図の配置がずれていたため、ワークシートは照らし合わせて読めるように配置した。このことにより、児童が文章を音読したり、文章を四角で囲んだりする学習活動が円滑にできるようになった。

また、各図に題名を記入するための空欄を設けた。図1には学習活動の例示の役割として、題名を入れた。なお、図3は、図が示す時代と文章の内容が若干混乱をきたすため、事前に題名を入れた。児童の学習状況によっては、図3も空欄にして課題にすることも可能である。

資料2：日本列島の成り立ち

図1	図2	図3	図4
約1万2千年前	約2万6千年前	約2万6千年前	約1万2千年前
完新世	更新世後期	更新世中期	更新世前期






更新世中期の固有種が生き残る本土

はるか昔、大陸と陸続きだった日本列島

（説文）

日本に固有種が多いわけは、日本列島の成り立ちに関係があります。日本列島ははるか昔大陸と陸続きでした。このとき、多くの動物が大陸からわたってきたとされています。その後、日本列島は、長い年月をかけて大陸から切りはなされていきます。野生生物の分布をもとにすると、日本列島は北から北海道、本土（本州・四国・九州）、南西諸島の三つのおにきに分けられますが、それは、大陸から切りはなされて島になった時期が、それぞれのちがうことなるためです。

④

資料2を見てください。アミノクロウサギの生息する南西諸島は、更新世前期に大陸から切りはなされて島になりました。アミノクロウサギは、そのずっと以前に大陸からわたってきた古い種です。大陸では、その役もろと進化したクサギが栄えたために、アミノクロウサギは、南西諸島の奄美大島と徳之島でだけ生き残ったというわけです。このように、他のちがうこと分断されることによって、固有種は生み出されるのです。同じように、本土にはニホンザルなど、主に更新世中期のものが生き残り、固有種になっています。

⑤

北海道が大陸とはなれたのは、完新世とよばれるひかひかの新しい時代です。ですから本土に比べて固有種が少なく、ヨーロッパまで分布しているヒクマなど、大陸と同じ種がたくさんいます。イギリスは、さらに新しい時代に大陸から分かれたために、固有種が少ないのです。

⑥

「読解力養成」を「読解力」に発展させるワークシート

めあて 図と文章を関連付けて読みましょう

① 図 ② 説文

（３） 授業を受けた感想と考察

以下の感想は、ア：授業を受けた小学５年児童、イ：小学５年の授業を参観した小学校教員、ウ：模擬授業を受けた大学生等の感想、エ：学会参加者の感想の中から、多かった感想を抜粋したものである。また、それぞれに、考察を加えた。

ア 児童の感想

- ① 音読がわかりやすかった。
- ② 図と文章を照らし合わせました。これをする、文も図も読み取りやすくなりました。これからは説明文などでいかせたらよいと思いました。しかし、難しかったです。
- ③ 図と文章を関連付ける事で、大事な事やどのような事を伝えようとしているかが分かりました。
- ④ 図の一つ一つに題名をつけるところがとても難しかったです。なぜなら必要な言葉を見つけ文にするのが難しかったからです。三人グループで話し合えてよかったです。

〔 考察 〕

- ① 全文の音読だけでなく、課題ごとに音読することが児童の理解を助ける。
- ② 一見、単純に見える「図と文章を照らし合わせる」学習課題は、児童にとっては容易ではなく、基本的な学習事項として繰り返し行う必要がある。
- ③ 「図に名前を付ける」学習は、文章の中での図の役割を理解するのに有効である。
- ④ 題名に使う言葉を選び、題名にまとめる学習は難しいため、グループ活動を取り入れると安心して学習ができる。

イ 小学校教員の感想

- ① 国語の授業での音読の大切さやスピードなど大変勉強になりました。低学年では毎回音読していますが、学年があがるにつれて音読をさせる回数が減っていくように感じます。音読の方法もいろいろとあると思いますが、全員で音読させることの大切さを学びました。
- ② 対応する文の範囲を囲んだり、キーワードに線を引いたりしていく中で、教科書の内容が分かりやすく理解することができました。一人一人の活動を多く作ることで、内容理解につながるのだと学ぶことができました。
- ③ 表題の確認時、キーワードや中心となる大切な文を押さえ、「それが入っていればよい」と評価したので、子どもたちも安心して達成感を得て、次への意欲につながっていたように見えた。
- ④ ３人組で図に名前を付けるところでは、児童が自分の考えを伝え合い、「これでいいんだよね？」「でもこう書いてあるからここまで必要なのでは？」等、活発に話し合いをしていました。苦手の児童にとってはヒントになり、得意な児童にとっては、言語化することにより深まるので、３人組は効果的だと感じました。

〔 考察 〕

- ① 一斉音読の「声を揃えて読む」指導では、読む速さ、誤読やばらついたときの読み直しなどの指導を繰り返し行うことが必要である。教師は音読の重要性には気付いているが実践していないことが多い。
- ② 全ての児童が参加できる指示（線を引く、線で囲む、指で指す、挙手等）が、児童の理解を助けることに気付いている。
- ③ 評価については、複数の解答の共通性から妥当性を評価する方法が有効である。
- ④ 図に名前を付けるような難易度が高い課題では、3人組で話し合うことが有効だという意見が多かった。

ウ 模擬授業を受けた大学生等の感想

- ① 一斉音読で全員の集中を本文に向けた後、図を示す文を選んだり、線を引いたり、各図に名前を付けたりして、この一連の流れから理解が深まる手順だった。
- ② 教材文にあらかじめ四角で囲んだり線を引くポイントを見付けさせたりすることで、表題をつけるときに範囲が狭まり見付けやすくなる工夫がされていて分かりやすかった。
- ③ 意図的な指名や、隣の人と相談したりみんなで一斉に読み上げたり、「同じ意見の人？」と確認したり、様々な方法で子供たちの学びの進捗度合を確かめられていてよかった。

〔 考察 〕

- ① 大学生でも音読により理解が深まることを実感している。
- ② 図に題名を付ける学習課題は、小学生と比較してキーワードを元に表題にまとめる言語能力が高く、短時間ででき、解答の差異も少なかった。
- ③ 教員を目指す学生は、授業の指示や板書などの授業技術に関心が高い。

エ 学会参加者の感想

- ① 教材文は内容が複雑で、資料数も多く難しい。読み方のレッスンとしては分かりやすい教材がよく、リライトなどが有効ではないか。
- ② 全国学力学習状況調査でも、非連続の読解に課題があることが示されている。
- ③ 自分の意見を裏付ける資料としてデータを使ったり、根拠としてデータを深めたりする学習が必要ではないか。

〔 考察 〕

- ① 小学校の教員は、必ずしも国語科を専門としているわけではなく、担当教科も多いので、教科書教材で指導をするのが一般的であることから、リライトをしなくても済む教科書教材の改善が必要である。現在の教材文を使用してできるシンプルで汎用性の高い学習課題が必要である。

- ② 図表等の資料がある文章を読む学習が、書く学習と連動するように指導することが大切である。
- ③ 国語科で図表等の資料と文章を照らし合わせて読む学習が、他教科の学習でも生かせるよう教科横断的な視点も必要である。

以上の感想では、音読、文章と図を結び付ける学習などの基本的な学習は、どの年代であっても、有効であると評価していた。また、図に名前をつける学習は、図の意味を文章の言葉を使って要約する学習となるため、言語能力が高い大学生には容易であるが、小学生には困難度が高く、小学生にとって思考力を育成するのに適した課題であることがわかった。

さらに、題名を付ける学習の評価方法として、題名にキーワードが含まればよいという評価が学習者にわかりやすいことがわかった。このキーワードの有無を基準にする評価の視点は、題名に限らず、文章を要約する学習や、記述式の課題においても効果的だと考える。

7 図表等の資料を含む論理的文章の学習

以上の実践から、図表等の資料がある論理的文章の「文章と図表等を関連づけて読む」学習の重点を次のように提案する。

（1）基本的な学習事項

- ① 音読 全文のほか部分でも文章を音読する。
- ② 段落 段落番号、キーワード抽出、段落の役割（あらまし・具体的事例・主張等の区別）などを確認する。
- ③ キーワード 1段落1事項を基本として、段落の内容を確認する。
- ④ 文章構成 形式段落のキーワードを列挙し、「はじめ（概要）、なか（具体的事例）、まとめ（一般化）、むすび（主張）」などを確認する。
- ⑤ 文章と図表との関連 文章と図表の照合、図表に題名を付ける

（2）図表等を文章と関連付けて読む学習

実践を通して、図表等を文章と関連付けて読む学習として有効だった2つの学習課題を提案する。

① 文章と図表の照合

これは、図表等とそれを説明する文章を照らし合わせて読む学習である。具体的な学習課題は、「この図を説明している文章はどれか」と確認するものである。単純明快で、基本的な学習課題である。しかしながら、このような基本的な学習課題が実践されずにいることが多い。図表等を説明する文章は、長さがまちまちであるため、長さに応じて線を引かせたり、文章を四角で囲ま

せたりする学習活動がよい。また、図に文章の中の言葉を補足させる学習課題も有効である。

さらに、プレゼンテーションの技能を高める視点を入れるならば、『「図1を見てください。」という一文を、本文のどこに入れるのが適切か』という学習課題も、図表等と文章を関連付ける学習として有効である。

② 図表等に題名を付ける

図表に題名を付けることは、文章中の図表等の役割や意味を確認する学習となる。具体的な学習課題は、「図に文章中の言葉を使って名前を付けよう」というものである。論理的文章における図表等の役割は詳細な事実であるが、数値や映像などが表す事実を言葉に置き換える作業が必要になる。通常の科学論文では、使用している図表等の意味を明確にするために表題が付いていることが一般的であるが、教科書には学習用に意図的に表題を示していない文章も多い。

図表等の題名を付けるときに留意したいのは、図表等が挿入されている意図を端的に示す題名を付けるということである。例えば、「日本の気温分布」よりは「温暖化が進む日本の気温分布」というように筆者がその図表等を入れた意味を理解し、文章中の言葉を使って作ることが肝要である。

8 結論

図表等を含む論理的文章の学習には、論理的な文章の基本的な学習（音読、段落、キーワード、文章構成）に加え、文章と図表等を関連付ける学習が必要である。これらの学習を行うことで、図表等が説明をより詳しく理解するための事実として役立っていることを理解することができるようになる。

また、図表等には必ずしも文章には関係がない多くの情報も含むが、文章と関連付けて読む学習を通して、雑多な情報の中から必要な情報を取捨選択することを学ぶことができる。

さらに、図表等は、帰納論理の中で主張の根拠となる具体的な事実としての役割を担っていることを理解することができる。

論理的文章の教材には、多くの図表等の資料が含まれることがあるが、すべての資料について詳細に学習する必要はなく、1教材で1・2か所の図表等を使って、文章と照合させたり、図表等に題名を付けたりする学習をすればよいと考える。

これらの論理的文章を読む学習を繰り返すことで、児童が自分で図表等を使って文章を書くときに活用されたり、社会科や理科などの他教科での学習に活かされたりすることを期待するものである。

「注」

- 1、市毛勝雄（1997）『説明文教材の授業改革論（市毛勝雄著作集第4巻）』明治図書、29、109、127
- 2、田中潔（1994）『手ぎわよい科学論文の仕上げ方第2版』共立出版、87、95

- 3、井上尚美（1998）『思考力育成への方略 メタ認知・自己学習・言語論理』明治図書、19、20
- 4、佐藤洋一（2011）『国語科「習得・活用型学力」の開発と授業モデル2 小学校中学年・説明文変』明治図書、25、47
- 5、長谷川祥子（2018）『はじめて学ぶ人のための国語科教育学概説 小学校』明治図書、21、148
- 6、日本言語技術教育学会編（2024）『言語技術教育33』溪水社108-113